

(写)

令和5年8月21日

国土交通省

鉄道局長 村田 茂樹 様

静岡県中央新幹線対策本部長

静岡県副知事 森 貴志

リニア中央新幹線静岡工区有識者会議（環境保全有識者会議）に対する意見について

令和4年6月より、リニア中央新幹線静岡工区有識者会議を計画的に開催し、南アルプスの自然環境の保全に向けた議論を進めていただき感謝申し上げます。

さて、第24回リニア中央新幹線静岡工区有識者会議（第11回環境保全有識者会議）（以下、「第24回有識者会議」という。）では、JR東海から、「沢の水生生物等に関するモニタリングと環境保全措置の計画について」（資料2）が提示されたところですが、適切な保全措置、モニタリング方法等の計画を策定するためには、事前に「沢の類型毎の水生生物等への影響分析・評価」を行うことが重要と考えております。

第24回有識者会議の「環境保全に関する論点」（資料1-2）では、これまで記載されていた「沢の類型毎の水生生物等への影響分析・評価」が記載されていませんが、次回以降、適切に実施していただくようお願い申し上げます。

また、第24回有識者会議においてJR東海から示された資料等に対し、県専門部会委員より意見聴取して、留意点や課題点等を「別紙」のとおりとりまとめました。

有識者会議において、本意見書及び既に提出した意見書を踏まえた具体的な議論を進めていただくとともに、JR東海に対し必要な御指導を行っていただくよう併せてお願い申し上げます。

1 資料2 沢の水生生物等に関するモニタリングと環境保全措置の計画について

(1) 重点的なモニタリングを実施する沢の抽出の追加

重点的なモニタリングを実施する沢として11箇所を抽出しているが、これは、各沢の下流部の動植物の生息・生育状況等をもとにして、抽出されたものである。

既に意見書で求めている「各沢の上流部の動植物の生息・生育状況調査」は現時点で行われておらず、この抽出には、上流部の動植物の状況が反映されていない。

仮に上流部の調査に時間を要するのであれば、上流部の動植物の状況に影響を及ぼす可能性のある「流量減少の傾向がみられる沢」7箇所全てについて、現時点では、重点的なモニタリングを実施する沢として抽出するようJ R東海に指導していただきたい。

なお、重点的なモニタリングによる動植物の生息・生育状況調査等を開始する時期は、「工事着手前段階」から実施するようJ R東海に併せて指導していただきたい。

(2) 生態系への影響想定を踏まえたモニタリングや環境保全措置等

適切な保全措置、モニタリング方法等の計画を策定するためには、あらかじめ生態系(動植物の生息・生育環境)への影響を想定しておかなければならない。

このため、事前に、トンネル掘削による沢の流量変化により、生態系(動植物の生息・生育環境)にどのような事態が生じる可能性があるのか分析・評価するようJ R東海に指導していただきたい。

2 資料3 トンネル掘削に伴う地下水位変化による植生への影響について

(1) 地形・地質的観点から高標高部の湧水や植物への水分供給経路の明確化

第24回有識者会議において、委員から、「千枚小屋付近には、1年中、枯れない湧水がある。高標高部の湧水や植物への水分供給経路については、地形、地質の状況から説明を加えるように」等の御意見があったが、対応についてJ R東海から明確な回答がなかった。

このため、御意見を踏まえて、表層部帯水層や中間帯水層、地下水帯水層など、断層や破碎帯との関連性も含め、どこから供給されているものなのか明らかにするようJ R東海に指導していただきたい。